

すがわらばしこうさてん な た 菅原橋交差点の成り立ち

菅原橋交差点は、都内でも珍しく右記のように道が交差する11差路となっています。

- ①⑦ 千葉街道
- ④⑩ 鹿骨街道
- ⑤⑪ 仲井堀通り
- ② 旧上八幡道
- ③ 昭和初期頃の小路
- ⑧⑨ 小松境川親水公園沿いの街道

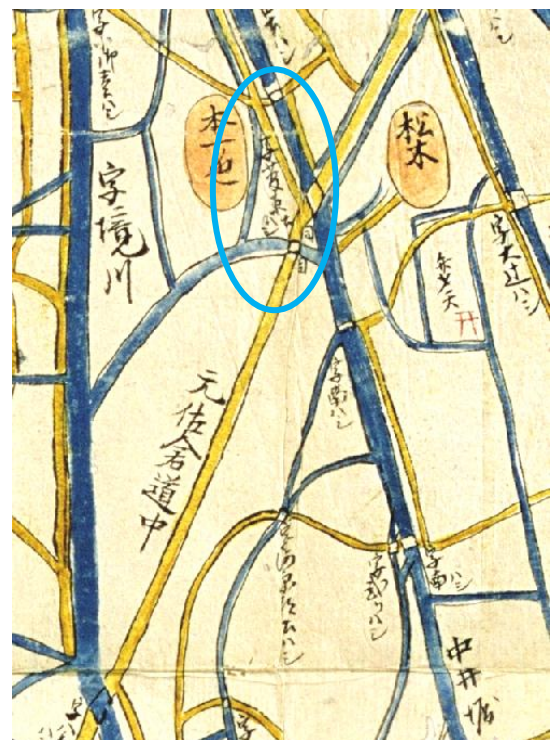


江戸時代の「菅原橋」

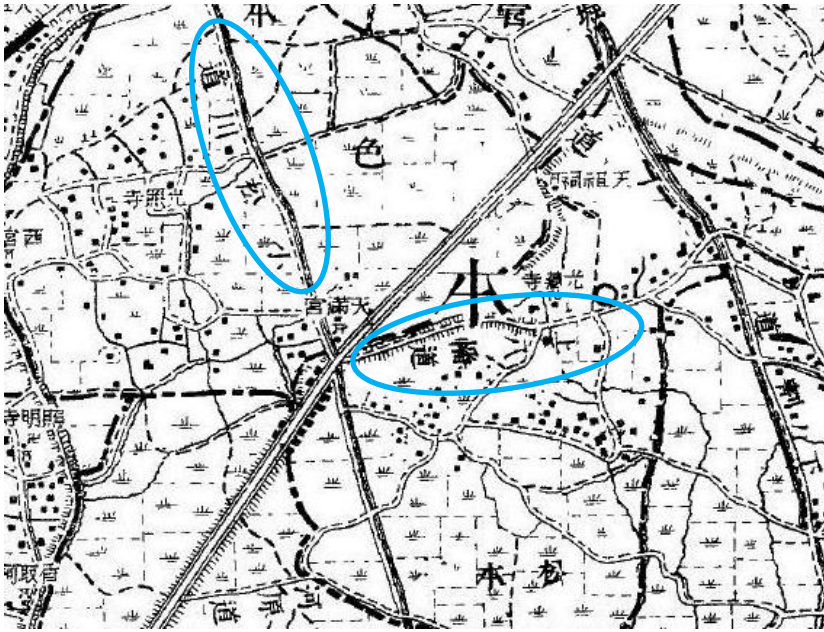
この複雑な交差点は如何にして成立したのでしょうか。文化2年(1805)の「葛西御場絵図」^{かさいごじょうえず}では、「中井堀」に架かる「元佐倉道中」の橋に「菅原大ハシ」の名が確認できます。

元佐倉道(現千葉街道)は、両国から逆井の渡しを経て市川へ通じる重要な道でした。

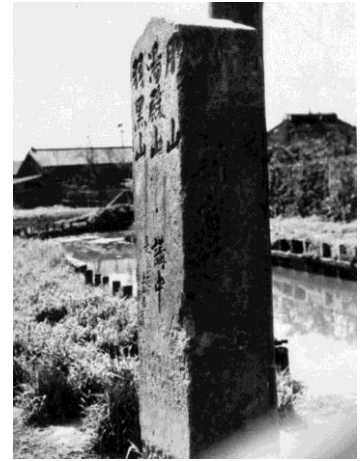
中井堀は小合溜井(現葛飾区水元公園内)を水源とし、新川に達する灌漑用水で、堀沿いには新宿に行く道がありました。菅原橋の名は、すがわらのみちざね^{こあいだめい}菅原道真を祀る天満宮(現北野神社)に由来します。神社には中井堀沿いの道にあった文政2年(1819)の「本一色の石造道標」^{ほんいっしき}が現存します。



「葛西御場絵図」



明治38年(1905)の地図



中井堀沿いにあった頃の「本一色の石造道標」。上平井道・新宿道・市川道を示している

鹿骨街道の整備

明治38年(1905)の地図には、中井堀の上流に沿って小松川道が、また笹ヶ崎(北篠崎)を経て葛飾八幡宮(市川市)に至る上八幡道が記されています。小松川境川の支流の末端も菅原橋に入り込み、元佐倉道沿いに家屋も建ち並んでいますが、鹿骨街道はまだ田の畦に沿って人家があるような道でした。

昭和3年(1928)に新小岩駅が開業し、同7年(1932)頃には総武線をまたいで上小松町・上平井町への道が、その数年後にも鹿骨街道が直線に整備されました。

同潤会通りと仲井堀通り

関東大震災後の住宅供給を目的に設立された財団法人同潤会どうじゅんかいにより、松江村のしんめい神明耕地整理の地区に436戸の住宅街が出現し、その中央を南北に貫いて同潤会通りができました。この通りの北端は、河原道かわらみち(千葉街道の中央三丁目から篠崎に至る細い古道)にT字で接続していました。この道が菅原交差点に接続されたのは昭和29年(1954)頃だったようです。



昭和38年(1963)の航空写真でみる菅原交差点南側の中井堀は水路

また中井堀は徐々に暗渠あんきよとなり、1970年代前半には「仲井堀通り」となりました。

江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)